

# 広馬場太々神楽だより

№4 2024年2月21日発行  
発行者 広馬場太々神楽保存会

● 広報しんとう 2024年2月号の表紙

広報しんとうの表紙を記念して特集号を発行します。



「神話時代について古事記より抜粋して神話の基礎を習いましょう」

【天と地が分かれば日本誕生】

はるか昔、天と地は交じり合い混沌としていたが、やがて天と地が分かるときが訪れ、世が始まる。天は神々が住む、高天原という天上世界となり、はじめに万物の祖とされる造化三神が現れ、続いて神世七代の神々が出現する。しだいに神は神世七代の最後として、イザナギとイザナミが登場。国生みの物語が始まる。

アマテラスの孫にあたる神で、宮崎の高千穂に降臨した天孫降臨伝承は有名。名は「天地が豊かに賑わう神」を意味し、降臨の際、稲作をこの地上にもたらし、産業における農業の神としての性格面が強い。このため御神徳には、五穀豊穡や商売繁盛の他、国家安寧、殖産振興などが挙げられる。

この表紙は去る1月21日に行われた「榛東村文化協会主催の伝統芸能発表会」会場 南部コミュニティセンター に於いて 榛東村の伝統文化団体6団体により開催されました。そのなかで広馬場太々神楽の発表「猿田彦舞」が広報の表紙となりました。

役場 文化財保護係担当の話で、「カッコいい表紙写真で広馬場神楽の魅力が表れています」と、また解説は明解で太々神楽は大きく壮大を感じ、衣装も豪華絢爛。《みちびきの神》をイメージできた。

猿田彦(サルタヒコ)命(ミコト)は、道の神、道案内(ミチアンナイ)の神、旅人の神とされました。」神話の中で、国(クニ)譲(ユズ)リが成立し天孫(テンソン)降臨(コウリン)の際に、天照大御神の孫にあたる瓊瓊(ニニギ)杵(ノ)尊(ミコト)をご案内しようと、道の途中でお待ちしていた神様で、形相(ギョウソウ)は天狗のイメージです。邪魔(じゃま)者を払いのけながら先導した故事(こじ)にちなんで「みちびきの神、みちひらきの神」として祀(まつ)られています。

”ニニギノミコト”



“古事記の神話HPより”

